

## 友好都市「漢中市」への地震災害義援金を届けました ～ご協力いただいた皆さまありがとうございました～



中国漢中市の劉玉明副市長に見舞金を贈る田中収入役(7月7日 漢中市役所)

中国四川省で発生した大地震により被災した友好都市・漢中市(陝西省)への義援金を5月20日～6月30日に受け付けたところ、合計で1,518,000円となりました。また、これとは別に中国のお金で136.8元(日本円で約2,100円)の募金がありました。

この義援金は、市内小中学生から寄せられた励ましの手紙や絵とともに市からの30万円、市議会議員の皆さんからの20万円の見舞金と一緒に7月7日に漢中市に届けました。

市民の皆さまの温かいご支援とご協力に厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

## 「築地松景観保全対策協議会」が、まちづくり功労者 国土交通大臣表彰を受賞

平成6年5月に設立された「築地松景観保全対策協議会」は、島根県・出雲市・斐川町と出雲市・斐川町の住民代表で組織し、築地松景観を全国に誇れる地域の財産として、築地松の保護育成と普及啓発を行うなど、築地松のあるまちづくりを推進しています。

協議会のこれまでの活動が認められ、このほど、魅力あるまちづくりの推進に努め、著しい功績があったとして、まちづくり功労者国土交通大臣表彰を受賞しました。

そこで、6月30日に、協議会の出雲市の住民代表松井英世さん、斐川町の住民代表瀬崎勝正さん、協議会副会長の野津副市長が県庁を訪れ、溝口善兵衛知事に受賞の報告を行いました。

知事からは、「築地松のパネル展を見たが見事なものだった。県としてもできるかぎりこの活動を支援していきたい」とのコメントがありました。



県知事に受賞を報告(6月30日 県庁知事室)

## 中世の製鉄炉遺構発見 ～田儀櫻井家より200年前～

多伎町奥田儀の屋敷谷(やしきだに)たたら跡から15世紀前半(室町時代)の製鉄炉1基と精錬鍛冶炉3基を発見しました。

発見した製鉄炉は、下部構造にあたる本床状遺構で、幅1.8m、長さ4.8m。精錬鍛冶炉は3基で、製鉄炉の東側に1基、地下に2基を確認しました。精錬鍛冶炉はいずれも製鉄炉を壊し、作られていました。

屋敷谷たたら跡は、国史跡に指定されている宮本鍛冶山内遺跡より東に2.5kmと近く、田儀櫻井家の奥田儀進出よりも200年前に奥田儀に製鉄集団が存在をしたことを示す発見であり、田儀櫻井家進出の背景や前史を語る上で重要な遺跡です。



発掘された製鉄炉遺構

## 観光戦略会議を立ち上げ ～観光交流人口1000万人を目指して～

市の観光基本計画の策定に向けて「出雲市観光戦略会議」を7月4日に設置し、第1回目の会議を同日開催しました。

戦略会議の会長に、小口孝司氏(千葉大学文学部准教授・同大学地域観光創造センター副センター長)が、副会長に沢登次彦氏(リクルート国内旅行カンパニーじゃらんリサーチセンター長)が選出されました。

市では、4月から観光政策推進本部を立ち上げるなど観光振興に力を注いでおり、「出雲神話観光大国」「観光交流人口1000万人」の実現に向け、具体的な観光戦略を検討・協議していき、基本計画の年内策定を目指します。



第1回出雲市観光戦略会議(7月4日 出雲科学館)